

ほかほかだより



2026年8月6日



今日は、夏季登園日でした。夏休み中ですが、幼稚園に集まって、『命や平和』について考える一日にしています。

1945年8月15日の戦争終結から今年で81年。当時の話を語り継ぐ人も年々少なくなってきました。子どもたちが実際に話を聞く機会はとても少ないと思いますが、さまざまな機会を見つけて戦争・平和について考え、命の尊さについて感じてほしいと願っています。先日は熊本で地震が起こりました。心配や不安を感じます。心が痛むことがあり、自然災害の恐ろしさに触れ、命の尊さについて話しました。支え合うこと、何かできること、自分や周りの人達の命の大切さに気づいていきたいと思います。

今回は、クラスごとにそれぞれの絵本を見て、平和について考えました。年齢ごとのねらいをお知らせします。

ねらい

- 《年少》 『身の回りの命や平和を感じる』
- 《年中》 『自分や周りの人達の命の大切さを知る』
- 《年長》 『平和について話し、命の尊さを感じる』

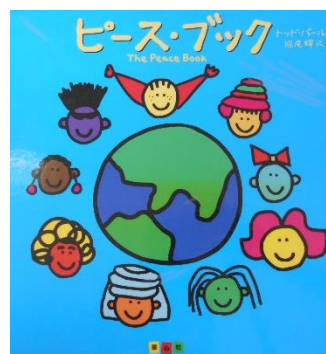
絵本を通して『一人ひとりの命は何よりも大切である』ということ、「大好きな人と一緒に過ごせる」「友だちとあそべる」「嫌なことは嫌だと、一人でも意見が言える」という日常が『平和』であるということ等、各クラスに分かれて話しました。今日読んだ絵本を紹介します。園にありますので、またぜひ見てくださいね。

《年少》『ピースブック』

作：トッド・パール
訳堀尾輝久（童心社）

～あらすじ～

「平和ってどんなこと」をテーマに、友だちを思いやる事助け合う事、違いを認め合う事など、身近な出来事を通して平和の大切さを伝える絵本です。



《年中》『ぼくがラーメンたべてるとき』

作：長谷川義史（教育画劇）

～あらすじ～

ある一瞬を切り取った壮大なお話です。
ぼくがラーメン食べてるとき、地球の裏側ではなにがおこってる？ ぼくがおやつを食べてるとき、他の国の子どもたちはなにしてる？ 遊んでる、働いてる、倒れてる・・・
世界の子どもたちに、平和への願いが込められた絵本です。



《年長》『8月6日のこと』

文：中川ひろたか 絵：長谷川義史（河出書房新社）

～あらすじ～

これは81年前、ほんとうにあったお話です。瀬戸内海はその日も おだやかな海でした。絵本作家の中川ひろたかさんが、広島原爆で亡くなった自分の伯父、被爆者となった自分の母の体験を伝え、子どもたちへ問いかけています。「核と平和」を描かれた絵本です。



☆おねがい☆

夏休み中 さくらんぼ保育利用の際は、9時～9時10分の登園をお願いします。遅刻や欠席をされる場合は必ず園に連絡をお願いします。



今回の取組みについての感想などお聞かせください。

お家でも今一度「平和や命」について話し合い、その時の子どもの様子やお家の方が感じられた事等も書いていただけると、嬉しいです。

（9月1日始業式に持って来てください）